

東泉院の明治維新

ろくしよよしざと

六所良邑とその時代

2025年11月22日(土)

▶ 2026年 1月25日(日)

休館日▶月曜日(祝休日は開館)、11/25、1/13、年末年始(12/28～1/3)

開館時間▶9:00～17:00 会場▶富士山かぐや姫ミュージアム展示室5・6

■ギャラリートーク

日時 11月30日(日)
12月14日(日)
1月10日(土)
14:00～14:30

申込 不要
展示室5に集合

受講料 無料



明治時代中頃の東泉院旧境内付近(富士山東泉院関係資料)

富士山かぐや姫ミュージアム 交通アクセス



路線バス

富士急静岡バス「広見団地入口下車」徒歩3分。

電車(JR)

JR 富士駅、新富士駅、吉原駅より車で15～20分。

高速道路

東名高速富士ICより3分。新東名高速新富士ICより5分。

■公開シンポジウム「東泉院の明治維新～六所良邑とその時代～」

日時 11月29日(土) 13:00～16:00

定員 90名(先着順)

講師 伊藤 聡(茨城大学教授)

阿部泰郎(名古屋大学名誉教授)

阿部美香(名古屋大学 CHT 研究員)

大東敬明(國學院大学教授)

大高康正(静岡県富士山世界遺産センター教授)

井上卓哉(静岡県富士山世界遺産センター准教授)

会場 富士市交流プラザ内交流センター 第1会議室

アクセス JR 富士駅北口から徒歩5分(静岡県富士市富士町 20-1)

申込開始 10/18(土) 9時から受付開始。電子申請、電話、メール、fax、博物館窓口にて受付。
氏名・住所・電話番号をお書きください。

受講料 無料

電子申請

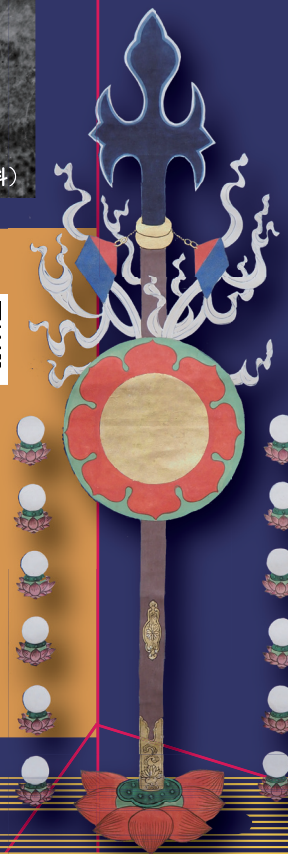


富士山かぐや姫ミュージアム

Mt. Fuji and Princess Kaguya Museum

〒417-0061 静岡県富士市伝法66-2

TEL 0545-21-3380 FAX 0545-21-3398



東泉院の明治維新

ろくしょよしさと

六所良邑とその時代

六所家は富士市今泉八丁目に位置する旧家で、明治政府による神仏分離政策の影響で還俗するまでは、富士山東泉院という寺院が境内を構えていた場所です。この東泉院第21代（真言宗東泉院第20世）で最後の住持となるのが薬雄（探道房）です。薬雄は出雲国神門郡知井宮村本郷（島根県出雲市）の浅津家の出身で、神門郡高岡村の多福寺（出雲市、師僧 定雄）に入り修学を始め、続いて醍醐寺報恩院（京都市伏見区）、御室仁和寺真乗院（京都市右京区、師僧 純融）、高野山（和歌山県）で修学しました。そして嘉永3年（1850）4月に東泉院に入寺し、以後慶応4年（1864）まで東泉院住持を15年勤めましたが、明治維新前後の混乱の中で神職に転じ、還俗して六所良邑（六所一）と改名し、六所家を興すことになります。

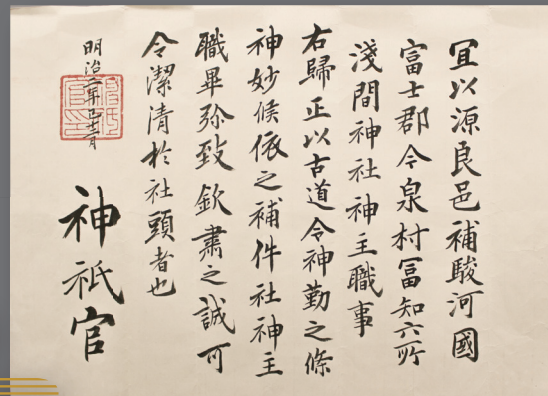
今回の展示会では、明治維新という支配体制、社会構造が大きく

変革した世相の中で近代化の荒波を乗り越え、明治19年（1886）10月23日に没した六所良邑という人物の生涯を通して、幕末から明治時代初期にかけてそれまでの宗教政策が再構築されていた時代の背景、僧侶から神職、教導職、さらには地域の有力者へと、時代の流れに適宜対応して生き抜いていくことになった地方の宗教者の具体的な対応を紹介します。

なお、本展は東泉院資料を研究対象とした科学研究費助成事業の成果の一端であり、代表研究者の伊藤聡氏をはじめ、阿部泰郎氏、阿部美香氏、大東敬明氏、大高康正氏、井上卓哉氏のご指導のもと、実施します。また、本展で紹介する富士山東泉院関係資料（当館蔵）は、令和7年（2025）7月、富士市指定有形文化財（歴史資料）として指定されました。

【展示構成】

- I 東泉院最後の住持、薬雄
- II 東泉院の明治維新
- III 神職として生きる
- IV 教導職としての活動
- V 地域の資産家に



富知六所浅間神社神主職補任状

（富士山東泉院関係資料）

明治2年（1869）12月

明治維新後、薬雄は還俗（僧侶の身分ではなくなること）して六所中務と称し、下方五社の神職を勤めることを申請する。下方五社とは、現在の富士市域に点在する富知六所浅間神社、滝川神社、今宮浅間神社、入山瀬浅間神社、日吉浅間神社の五つの神社を指し、東泉院はこれら五社の別当を勤めていた。この補任状は、明治2年12月に実名の良邑宛にて富知六所浅間神社神主職が認められた際のもの。



霊簿と神鏡（富士山東泉院関係資料） 明治15年（1882）

平成25年（2013）まで残されていた旧六所邸の式台玄関に接続する4畳間を挟んだ8畳間の奥には、霊屋と呼ばれる場所が存在していた。霊屋とは仏教における仏壇と同様に、神道式に代々の先祖を祀るためのスペースであり、霊屋の扉の中には先祖の依代としての神鏡と、東泉院の歴代住持の名前を記した霊簿が掲げられていた。霊簿の裏面には、東泉院最後の住持であり、六所家初代の良邑が明治15年（1882）12月にしつらえたことが記されている。



本展示は、日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（B）「両部神道の伝播と継承に関する総合的研究」（研究代表者：伊藤聡（茨城大学教授）、令和3～7年度）の成果の一部である。

